

# 肋膜炎著ノ研究

## 殊ニ特發性肋膜炎ニ關スル考察

(昭和 14 年 10 月 3 日受領)

東京帝大醫學部病理學教室

(指導 緒方知三郎教授)

岡 治 道 講 師

岩 崎 龍 郎

病理解剖學的ニ特發性肋膜炎ノ研究ヲシヨウトスル事ハ仲々困難ナ事デアル。何故ナラバ特發性肋膜炎ハ元來豫後良好ナモノデアツテ、其ノ疾患自身ノ經過中ニ死亡シテ解剖サレル事が甚ダ稀デアルカラデア。勿論サウ云フ報告<sup>(1)</sup><sup>(2)</sup><sup>(3)</sup><sup>(4)</sup>モアル。併シ夫等ノ内一ハ既ニ新鮮ナ状態ハ經過シテ二次的ニ色々ナ變化ガ追加サレタト考ヘネバナラヌ様ナ例ガ多イノデア。著者ガ取り扱ツタ東大病理學教室ノ過去 10 年間ノ 2 千數百例ノ中一ハ不幸ニシテ特發性肋膜炎ノ剖檢例ハ 1 例モ見出スコトガ出來ナカツタ。併シ吾々ハ特發性肋膜炎ノ遺殘物ヲ各種疾患ノ剖檢ニ際シテ見テ居ル筈デア。即チ日常經驗スル癒著性纖維性肋膜炎ノ或ル物ハ恐ラク此ノ遺殘物ダツタラウ。從ツテ此ノ肋膜炎ノ癒著ヲ多數例ニ就イテ種々ノ觀點カラ研究シタナラバ特發性肋膜炎ニ關シテ病理解剖學上ノ知見ヲ増スコトニナラウト思ハレル。サテ此ノ觀點ヲ決定スル爲ニハ特發性肋膜炎ニ關スル文献ヲ檢討シテ見ナケレバナラナイ。Grawitz<sup>(5)</sup>ハ肺ニ吸入サレタ塵埃ガ健康ナ肋膜炎ニ達シ之ガ刺戟トナツテ滲出性肋膜炎ヲ起スト云フ。又、漠然トシタ「ロイマチス」説ガアル。又金井氏<sup>(6)</sup>等ノ植物神經學説ガアル。併シ岡講師<sup>(7)</sup>ノ云ハルル如ク、病因論ノ焦點ハ次第ニ結核症ニ結バレテ來タ。Aschoff<sup>(8)</sup>ハ特發性肋膜炎ノ滲出液中ヨリ高率ニ結核菌ヲ證明シタ。而シテ術式サヘ完全ナラ

バ 100%ニ陽性成績ヲアゲ得タラウト云ヒ、特發性肋膜炎ガ結核性デアルト云フ確證ヲアゲテ居ル。併シ結核性ノ肋膜炎ガスベテ特發性肋膜炎デナイ事ハ贅言ヲ要シナイ。特發性肋膜炎ハ Frühpleuritis 或ハ Initialpleuritis トモ云ハレ König<sup>(9)</sup>ニヨツテ肺結核症ニ隨伴シテ起ル Begeleitpleuritis カラ區別サレタ。ソシテ此ノ特發性肋膜炎ガ結核ノ初感染ニ關聯シテ發生スルト云フ具體的ナ證明ガ東西殆ンド時ヲ同ジウシテアラハレタ。一ツハ吾ガ海軍ノ小林氏<sup>(10)</sup>ニテ海兵ニ多發スル特發性肋膜炎ノ研究ニアタリ「ツベルクリン」反應ノ廣範ヲソシテ徹底シタ検査ニヨリ之ヲ證シ、他ハ Arborelius,<sup>(11)</sup> Engel<sup>(12)</sup>等ニテ、結核初期變化群ナル肋膜炎直下ノ肺門淋巴腺ノ病竈トノ關係ヲ「レントゲン」的ニ證明シタモノデアツタ。更ニ其ノ發生ノ細キ機序ニ關シテハ種々ナル實驗的ナ研究ガアルガ吾々ハ必ズシモ明瞭ナ解答ヲ得テ居ナイ現状デア。併シ著者ガ特ニ特發性肋膜炎ノ考察ヲ志シテ肋膜炎癒著ヲ研究スルニアタリ據ルベキ方針ハ決定シタ。即チ結核症トノ關聯殊ニ初期變化群トノ關係ヲ注意スルコトデア。

著者ノ用ヒタ材料ハ 1928 年ヨリ 1937 年ニ至ル 10 年間東大病理學教室解剖 2531 例中、局所解剖ニテ胸部所見不明ノモノ及ビ他ノ記載不十分ノモノヲ除イタ 1947 例デア。此ノ材料ハ多クノ剖檢者ニヨツテ種々ノ疾患ニ向ケラ

タ解剖デアツテ吾々ノ觀點カラシテハ其ノ記載ニ屢々不満足ノ所ハアルケレドモ肋膜ノ癒著殊ニ肋骨面ノ病變ニ關シテハ比較ノ詳細ナ記録ガトラレテ居ル。是ハ剖檢ニ際シテ肺ヲ取り出ス場合肋膜癒著ガ深く印象ツケラレルニヨルノデアアル。故ニ此ノ材料ニテ肋膜癒著ニ關スル限リハ正確ナ記載ガアルト信ジテ良イ。唯葉間面ノ癒著ハ等閉ニ附サレタ嫌ヒガアル。

先ヅ肋膜癒著ノ全體ヲ集メテ見ルト、1947例中1433例即チ73%強ヲ占メテ居ル。ソノウチ19%強ハ肺又ハ肋膜ノ腫瘍或ハ縦隔竇ノ疾患或ハ肺炎、肺壞疽等又ハソノ既應症アリ明ニ結核症以外ニ追及出來ル原因ガアツテ肋膜癒著ヲ起シタモノデアツタ。33%ニハ肺結核症ガ證明サレタ。13%強ニハ肺結核症モナク他ニ肋膜癒著ヲ起ス因子モナイ唯結核初期變化群ガ發見サレテ居ル。残りノ34%強ニハ肺結核症モナシ他ニ肋膜癒著ヲ起ス因子モナシ、又結核初期變化

群モ發見サレテ居ナイ。此處ニ於テ肺結核症ヲ伴フ33%ヲA群トシ、結核初期變化群ノミ發見サレタ13%ヲB<sub>1</sub>群トシ結核初期變化群モ發見サレナカツタ34%ヲB<sub>2</sub>群トシ、又結核症以外ニ明カニ肋膜癒著因子ガ求メラレル19%ヲC群トスル。

A群ノ中ニハ勿論多數例ニ特發性肋膜炎ノ後遺の病變ガアツタラウ。併シ此ノ群ニハ第二次結核症トシテ肺結核症ガ發展シテ居タ。故一ソノ隨伴肋膜炎ノ發生ガ考ヘラレネバナラヌ。故ニ特發性肋膜炎其モノノ追求ニ於テハA群ハ除外スベキデアアル。同様にC群ニモ特發性肋膜炎ヲ經テ來テ居ル者ガアラウ。併シ此處ニモ明カニ結核症以外ノ明白ナ肋膜癒著因子アルヲモツテ除外スル。問題トスベキハB<sub>1</sub>B<sub>2</sub>兩群デアアル。而モ兩者ハ肋膜癒著全數ノ約半數ヲ占メテ居ル。

此ノ兩群ニ就イテ種々ノ見方カラ癒著ノ様式ヲ比較シ見ル。第1表ハ主トシテ癒著ノ擴ガリ

第1表 A群B<sub>1</sub>群及B<sub>2</sub>群ノ肋膜癒著様式(I)

群 別	第一次結核肋膜炎 B群				第二次結核肋膜炎		
	B <sub>1</sub> 群		B <sub>2</sub> 群		A 群		
分 布	實 數	百 分 率	實 數	百 分 率	實 數	百 分 率	
癒著様式							
兩側全部	21	10.3% ± 2.2%	40	8.2% ± 1.2%	110	30.5% ± 2.4%	
一側ノミ全部他側一部	20	9.8% ± 2.2%	69	13.7% ± 1.5%	105	29.1% ± 2.4%	
一側ノミ全部	37	18.5% ± 2.8%	79	15.7% ± 1.6%	34	9.4% ± 1.5%	
部	肺炎ノミ	17	9.2%	42	8.6%	31	8.6%
	上部ノミ	36	18.5%	85	17.1%	38	10.5%
	下部ノミ	22	11.9%	82	16.8%	8	2.2%
	後部ノミ	6	3.3%	29	5.9%	4	1.1%
	葉間ノミ	7	3.8%	8	1.6%	4	1.1%
	上部及下部	6	3.3%	20	4.2%	17	4.7%
	其 他	7	4.9%	4	0.8%	9	2.5%
	不 明	12	6.5%	38	7.8%	4	1.1%

工合ニ就イテ統計ヲトツタノデアアル。即チ兩側全般的ノ癒著、一側ノミ全般的他側一部及ビ一部分ノミノ癒著ヲ區分シテA群、B<sub>1</sub>群B<sub>2</sub>群ヲ對立セシメ更ニ一部分ノミノ癒著ヲ部位ニヨツテ細分シ三群ノ比較ヲトツタ。B<sub>1</sub>B<sub>2</sub>兩群ハ各區分ニ於ケル百分率ガ殆ンド全ク一致シテ居ル。一

部分ノミノ癒著ニ於テモB<sub>1</sub>群ニテハ61.4%、B<sub>2</sub>群ニテハ62.1%、全ク一致シタ數値ト云ハルベク又肺尖部ノミノ癒著、上部ノミ、下部ノミト云フ如キ癒著部位ノ百分率モ殆ンド全ク一致シタ數値ヲ得タ。而シテ之ヲA群ト比較スル時ハ一層B<sub>1</sub>B<sub>2</sub>兩群ノ相似ヲ知ル事ガ出來ル。

第 2 表ニ就イテ見ル。第 1 表ノ一側全部並ニ一側全部他側一部ト云フ 2 區分ヲ一側全部ト云フ範疇ニ一括シテ一部、一側全部、兩側全部ノ 3 區分ニ就イテ各年齢別ニ其ノ分布ヲ見タノデ

アル。此處ニ於テモ B<sub>1</sub> B<sub>2</sub> 兩群ガ頗ル類似シテ A 群ニ對シテ居ルノガ分ル。前者ニ於テハ各年齢ニ於テ一部分ノ癒著ガ最モ多ク常ニ約 60% ヲ保持シ兩側全體ノ癒著ハ最モ少ク B<sub>1</sub> B<sub>2</sub> 群トモ

第 2 表 A 群 B<sub>1</sub> 群及 B<sub>2</sub> 群ノ肋膜癒著様式(Ⅱ)

群別	年 齡	1—10歳	11—15歳	16—20歳	21—25歳	26—30歳	31—40歳	41—50歳	51歳—
B <sub>1</sub> 群	一部	3 60% ± 21.9%	5 100%	6 60% ± 15%	7 50% ± 13%	8 50% ± 13%	25 51.5% ± 7.5%	27 65.7% ± 7%	38 63.3% ± 6%
	一側全部	2		4	5	6	13	10	13
	兩側全部				2	2	4	4	9
	計	5	5	10	14	16	42	41	60
B <sub>2</sub> 群	一部	5 71% ± 17%	6 75% ± 15%	12 75% ± 10%	14 48% ± 9%	16 55% ± 9%	43 65% ± 5.9%	66 35% ± 4.7%	143 60% ± 1%
	一側全部	2	2	1	8	8	17	31	76
	兩側全部				7	5	6	4	18
	計	7	8	16	21	29	66	101	237
A 群	一部	4 50% ± 18%	6 50% ± 14%	8 19.6% ± 6%	13 26% ± 6%	12 26.7% ± 6.6%	15 23.8% ± 5%	10 23.2% ± 6.4%	41 45% ± 5%
	一側全部	2	4	20	22	16	26	18	31
	兩側全部	2	2	14	15	17	22	15	23
	計	8	12	42	50	45	63	43	98

若年者ニハナイ。A 群ニテハ一部分ノ癒著ハ各年齢トモ低率ニテ兩側全般ノ癒著ハ若年者ヨリ

第 3 表 B<sub>1</sub> B<sub>2</sub> 兩群ノ肋膜癒著様式(Ⅲ)

群別	年 齡	癒著様式	右全部	右一部	右全部 左一部	左右全部	左右一部	左全部 右一部	左一部	右全部
B <sub>1</sub> 群	1—10歳		1	1				1		1
	11—15歳			1			3		1	1
	16—20歳		2	2			1	1	3	2
	21—25歳		2	2	1	2	3		2	2
	26—30歳		1	3	1	2		4	4	2
	31—40歳		7	10	2	3	8	1	5	
	41—50歳		10	13	1	5	8		6	
	51歳—		4	17	7	9	10	2	11	1
B <sub>2</sub> 群	1—10歳			2	2		2		1	
	11—15歳		1	5			1	1		
	16—20歳		1	2	1		5	1	5	1
	21—25歳			5	4	7	6	2	3	2
	26—30歳		2	8	3	5	3	1	5	2
	31—40歳		9	16	5	6	14	2	13	1
	41—50歳		9	26	6	4	22	9	18	7
	51歳—		28	45	23	18	75	12	25	11

高率ニ存在スル。B<sub>1</sub>B<sub>2</sub>ニ比シテ異ツタ關係ニア  
ルヲ知ル。

次ニ癒著ノ様式ヲ其ノ部位ニヨツテ更ニ精細  
ニ區分シテ右全部、右一部、右全部、左一部、  
左右全部、左右一部、左全部右一部、左一部、  
左全部ト云フ8群ニ區分シテ各年齢ニ於ケル分  
布ヲ見タ。第3表ガ之デアリ。B<sub>1</sub>B<sub>2</sub>兩群ノ類似  
ハ此處ニモ明カデアリ。而シテ右全部、右一部、  
右全部、左一部ヲ合シテ主トシテ右側ニ癒著アル  
モノトナシ、左全部、左一部及ビ右全部、右  
一部ヲ合シテ主トシテ左側ニ癒著アルモノトス  
ル。B<sub>1</sub>群ニテハ右側ガ45%±3.6%、左側ガ25  
%±2.4%、B<sub>2</sub>群ニ於テハ右側ガ40%±2%、左  
側ガ23%±1.8%、イヅレモ右側ニヤ、多イ。  
而モ殆ンド同ジ數値ヲ出シテ居ル。

次ニ厚キ肺狀ノ癒著ヲ觀察シテ見ル。一體  
ニB<sub>1</sub>群B<sub>2</sub>群ニ於テハ此ノ Schwielenbildung ガ  
少イ。B<sub>1</sub>群ニ於テハ5%、B<sub>2</sub>群ニ於テハ3%ニ  
見ラレルノミデアリ。試ニA群ヲ見ルト23%ニ  
存在シタ。又肥厚ノ部位モB<sub>1</sub>群B<sub>2</sub>群ニテハ共ニ  
上下ニ著シイ差ガナイガA群デハ上部ニ多イ。  
A群ノ肺結核症ガ上葉ニ多ク且其處ニ陳舊性病  
竈ヲ有スルデアラウコトハ常識的ニモ明カデア  
ツテ其處ニ Begleitpleuritis ナ生ジテ如斯關係

ヲ生ジタ爲ダト考ヘラレル。

第4表 肋膜肺形成部位

部 位	A 群	B <sub>1</sub> 群	B <sub>2</sub> 群
上 部	54	4	6
全 部	30	4	3
葉 間	2	1	2
中 間		1	
下 部	28	2	5
計	132	12	16
各群ニ於 ケル率	24%±1%	5%±1.5%	3%±0.7%

次ニ解剖中「ツベルクリン」反應ノ検査シテア  
ツタモノニ就テA群B<sub>1</sub>B<sub>2</sub>群及ソレ以外ノモノ  
ト比較シテ見ル。此處ニ用ヒラレタ「ツベルク  
リン」反應ノ術式ハ或ハ「マントー」氏方法デア  
リ或ハ「ビルケー」氏方法デアリ。又時ニハ惡性  
腫瘍、白血病結核病其他ノ消耗性疾患ノ末期ニ  
檢セラレ時ニハ心臟疾患、腎疾患等ノ皮膚浮腫  
ヲ伴フ場合ニ檢セラレ且又之ヲ年齢別ニ分ツト  
キ各項ニ所屬スル數値ハ小デアツテ餘リ信頼ス  
ベキ根據ニハナラヌケレドモ一應ノ參考ニハナ  
ラウ。A群ニ於テハ陽性率ガ高イ。B<sub>1</sub>B<sub>2</sub>兩群デ  
ハ大體陰陽相半スルト云フ成績デアリ。A群B<sub>1</sub>  
B<sub>2</sub>群以外ノモノデハ斷然陰性者ガ多イ。

第5表 A、B<sub>1</sub>、B<sub>2</sub>群及ビA、B群以外ノモノノ「ツベルクリン」反應成績

群 別	年 齡	陰 陽								計
		1—10歳	11—15歳	16—20歳	21—25歳	26—30歳	31—40歳	41—50歳	51歳—	
A 群	陽	19	4	12	16	11	1	3	2	68
	陰	1	1	3	1	2	6	4	6	
B <sub>1</sub> 群	陽	2	1		2	3	4	3	4	19
	陰				1	3	4	4	3	
B <sub>2</sub> 群	陽	1	2	1	4	1	7	5	14	35
	陰	7	3	3	3	3	8	11	17	
A、B群以 外ノモノ	陽	8	1	2	3	2	5	7	8	36
	陰	122	11	5	7	2	12	8	21	

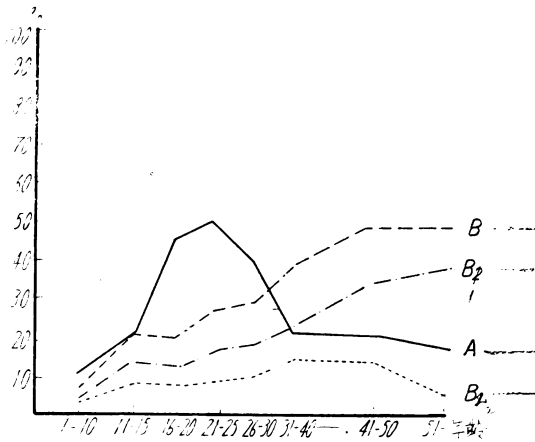
以上ノ如キ比較ニ依ツテB<sub>1</sub>群トB<sub>2</sub>群トハ各種  
ノ關係ニ於テ全く類似シタモノデアリコトガ明  
トナツタ。只ソノ相異ハB<sub>1</sub>群ニ於テハ結核初期  
變化群ガ發見サレ、B<sub>2</sub>群ニ於テハ夫ガ發見サレ  
テ居ナイト云フ點ニアル。此處ニ一言セネバナ

ラヌコトハ剖檢ニ際シテ結核初期變化群ヲ發見  
スルノハ必ズシモ容易デナイト云フ事デアリ。  
殊ニ初感染ヨリ長年月ノ經過ナル場合デハ此  
ノ發見ハ意識シテ探シテモ屢々困難デアリ、又  
時ニハ顯微鏡的デモアルノデアリ。處デ此處ニ

取り扱ハレタ材料ハ前述ノ如ク多クノ執刀者ニヨツテ種々ノ疾患ニ向ケラレタ解剖デアツテ必ズシモ常ニ結核性初期變化群ノ發見ニ意ヲ用ヒテハ居ナイ。シカラバ初期變化群ノ見落サレタ場合ハ多クアルバク、從ツテB<sub>2</sub>群ニ屬スル各例ハ結核初期變化群アルノデアアルガ、只發見サレナカツタノミダト考ヘテ差シ支ヘナカラウト思フ。

此處ニ於テB<sub>1</sub>群B<sub>2</sub>群ノ各年齢ニ於ケル出現率ヲトツテソノ傾向線ヲ造ツテ見ルト第1圖ノB<sub>1</sub>B<sub>2</sub>曲線ガ夫デアアル。

第 1 圖 A 群 B 群 (B<sub>1</sub> 群 B<sub>2</sub> 群) ノ肋膜癒著ノ年齢的傾向曲線

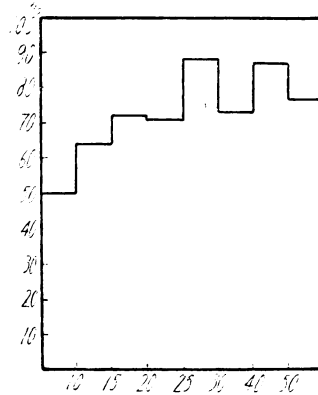


此ノ兩曲線ハ30歳マデハ殆ンド同一傾向ヲモツテ居ル。30歳—40歳ノ間ハB<sub>1</sub>ハ上昇スルニ反シテB<sub>2</sub>ハ平坦50以上ニ於テハB<sub>2</sub>ハ率ヲ下降シテ居ル。此ノ相異ハ何一ヨルカ、之ハ初期變化群ガ若年者ニ於ケルヨリモ高年者ニ於テ益々發見シニク、ナツテ來ルト云フ事實ト此ノ剖檢例ガ特ニソノ發見ニ努力シタモノデナイト云フコト、ヲ考ヘ合セレバ説明ノツクコトデ、丹念ニ結核性初期變化群ヲ檢索シタナラバB<sub>1</sub>B<sub>2</sub>ハ合シテB曲線ニナルベキモノト考ヘラレル。即チ肋膜癒著ノ様式其他ヨリ考ヘテB<sub>1</sub>B<sub>2</sub>兩群ハ同一ノモノデアリB群トシテ一括出來ルト信ズル。此ノB群ノ癒著様式ハ前述セル如ク一部分ノモノガ多ク60%強ヲ占メ、全般ニワタル癒著ハ比

較的少ク殊ニ左右全般ノ夫ハ10%ヲ出デス。又肺脏狀癒著ハ4%ニシカ見ラレナイ。之ヲA群即チ肺結核症ノアルモノニ比フルトキハ著シイ相異デアツテ著者ハB群ノ癒著コソ所謂特發性肋膜炎乃至ハ臨牀的ニ特ニ知ラズシテ治癒シタ肋膜炎ノ跡グラウト想定シタノデアアル。此ノ想定ガ妥當デアラウカドウカ、ソレニ就テ考察ヲス、メテ見ル。

此ノ材料ニ於テ結核ノ初期變化群ガアツタナラバドノ位ノ百分率ニ肋膜ノ癒著ガ起ツテ居ツタラウカ。B<sub>1</sub>群及ビ肋膜變化ナキモノ、ウチ初期變化群ノミ見出サレタ者ヲ合シテ各年齢ニ於ケル肋膜變化ノ率ヲ計算シテ見タ。即チ初期變化群ノアツタ場合年齢的ニドレタケノ率ニ肋膜癒著ガ起ルカト云フノデアアル。例數ガ少イノデ此ノ百分率ニハ多クノ誤差ヲ考慮セネバナラス。第2圖ニ於テ此ノ關係ヲ圖示シタ。若年者殊ニ10歳以下デハ初期變化群ガ存在シテモ肋膜癒著ハ約50%シカ起ラス。年齢ガ増スト共ニ此

第 2 圖 肺結核症ナク初期變化群ノミアルモノノ肋膜癒著率



ノ率モ高マツテ26歳以上ニハ80%—90%ニモ肋膜癒著ガ剖檢デタシカメラレタノデアアル。幼年者ニ少イノハ此ノ時期ニ於テハ結核ノ初感染ガアツテモ特發性肋膜炎ガ何故カ起リニクイト云フ事實ト一致スル。此處ニA群C群ハシバラク考慮ニ入レナカツタケレドモ、此ノ群ヲ考慮

ニ入レルトキハ初期變化群ノアル場合ニ於ケル肋膜癒著ノ率ハモツト増ス計算トナル。即チ成人ニ於テハ結核初期變化群アルモノデハ高率ニ肋膜癒著が見出サル、コトハ明白デアル。

次ニB<sub>1</sub>群ヲ更ニ分析シテ考ヘタ。初期變化群ガ右側ニアルモノ及ビ左側ニアルモノヲ分ケテ各々ニ就キテ癒著ノ部位ト擴テ右全部、右一部、右全部、左一部、左右全部、左右一部、左全部、右

一部、左一部、左全部ノハツニ區別シ之ヲ縱軸ニハ年齢ナトリ此ノ坐標ノ上ニ癒著ノ分布ヲ追跡シタ。第3圖ガ夫デアル。初期變化群ノ存在側ト肋膜癒著側トノ關係ヲ見タノデアル。初期變化群トノ同一側ノミ肋膜癒著ノ存スルモノハ44.2%±3.7%反對側ノミ存スルモノハ14.4%±2.6%デアル。此ノ差ハ偶然ニ生ジタモノデハナク初期變化群ト肋膜癒著トノ緊密ナ關

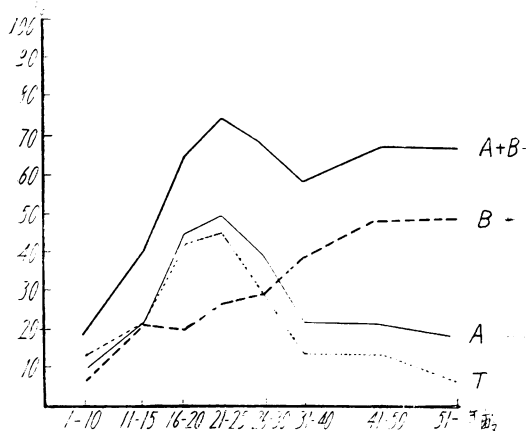
第 3 圖 結核初期變化群ト肋膜癒著トノ關係

癒著部位	結核初期變化群 右側								結核初期變化群 左側							
	-10歳	11-15歳	16-20歳	21-25歳	26-30歳	31-40歳	41-50歳	51歳	-10歳	11-15歳	16-20歳	21-25歳	26-30歳	31-40歳	41-50歳	51歳
左全部									•		•	•	•	•		•
左一部						•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•
左全部 右一部			•										•	•		•
左右一部	•	•	•	•	•	•	•	•	•			•		•	•	•
左右全部						•	•	•				•	•		•	•
右全部 左一部				•	•	•	•	•							•	•
右一部	•	•	•	•	•	•	•	•			•	•			•	•
右全部	•		•		•	•	•	•				•	•	•	•	•

係ヲ示スモノデアル。而シテ右側ニ於テハ此ノ相關關係ハヨリ著シク左側ニ於テハ右程著明デハナイ。此ノ様ニ結核初期變化群ト肋膜癒著トノ關係ヲ研究シテ同様ノ結論ニ達シタノハ著者ノミデハナイ。Lange<sup>13</sup>ヲハジメ吾ガ國デハ岡講師<sup>14</sup>ヲ最初トシテ沓掛氏<sup>15</sup>、岩下氏<sup>16</sup>及ビ倉島、福田<sup>17</sup>兩氏等ノ報告モサウダ。コトニ福田氏等ハ初期變化群ト靜脈角淋巴腺ノ結核病竈ヲモ檢シテ第二次結核症ガ進展セズ初期變化群ノミアルモノニ於テモ靜脈角淋巴腺ニ結核病變ノアルモノガ30%ニモアル。之ト肋膜炎トノ關係ガ密接ダト興味深イ事ヲ述ベテ居ル。著者ノ材料ニテハ此ノ事實ニ關シテ統計ヲトルコトガ出來ナカツタ。以上ノ如クB群ノ肋膜癒著ハ初期變化群ノ成立ト關聯シテ發生シタモノデアル事ガ推論出來ル。而モ初期變化群アルモノニ

於テハ頗ル高率ニ肋膜癒著ガ起ツテ居ルコトハ前述ノ如クデアルシ、又肺結核症アリテ肋膜變化ヲ起サスモノハ殆ドナイト云フ事實(第6表參照)ガアル。故ニA群B群ヲ合シタ肋膜癒著ノ年齢的傾向線ハ「ツバルクリン」陽性率ノ傾向線ト並行ナルモノトナラウト考ヘラレル。第4圖ニ於テA+B曲線ハA曲線B曲線ヲ加ヘテ造ツタ曲線デアルガ之ハ一般ノ「ツバルクリン」陽性率曲線ト類似シテ居ル。殊ニA+B曲線ノ25歳ニ於ケル山ハ次ノ理由ニヨツテ補正サレ得ベキデアルカラデアル。此處ニ本材料ニ於ケル結核死ノ統計ヲ取ツテ見タ。(第6及第7表參照)。ソシテ其ノ年齢的分布傾向線ヲ造ツテ見ルト第4圖ニ於ケルT曲線トナル。T曲線ハA曲線ト類似シコトニ25歳マデハ全ク一致スルト云フコトガ出來ル。此ノ解剖材料ニ於テハ25歳

第 4 圖 A 群B 群及 A+B 群ノ癒著傾向曲線  
 並ニ結核死ノ曲線(T)



附近ニ於テ結核死ガ山積スル。故ニ A+B 曲線ヲ生體ノ「ツベルクリン」反應ト比較スル場合ニハ 25 歳ニ於ケル山ヲケズルベキデアル。然ルトキハ此ノ補正サレタ曲線ハ「ツベルクリン」陽性率曲線ト全ク並行シタ曲線トナル。

A 曲線ハ勿論肺結核症ニ原因シタ所謂 Begleitpleuritis ノ曲線ト解スルコトガ出來ル。然ラバ B 曲線ヲ以テ結核初期變化群ニ關聯シテ發生シタ肋膜變化ノ曲線ト解シテヨイト思ハレル。此ノ範疇ニ屬スル癒著ハ所謂特發性肋膜炎トシテ臨牀的ニタシカメラレタモノ、跡デアルガ或ハ臨牀的ニハ著明ナ肋膜炎ヲ認メラレズニ經過シタヤハリ特發性肋膜炎ト同性質ノヨリ輕症ナ肋膜炎ト跡ト解シテヨカラウト思フ。A 群肋膜癒著ヲ起シタ Begleitpleuritis ハ第二次結核肋膜炎ト云ヘル。B 群ノ癒著ヲ起シタ原因ハ第一次結核肋膜炎ト命名スル事ガ今迄ノ議論デ安全デアル。只此ノ研究ニ於テ既應歴ニサカノボツテ肺炎其他肋膜癒著ヲ惹起シ得ベキ因子ノ明カデアツタモノハ C 群トシテ B 群ヨリ除外シタ管デアルケレドモ既應歴ト云フモノハ必ズシモ完全ナモノデハナイ。此ノ點本研究ニハ大キナ不備ガアルケレドモ併シ多數ノ統計ニヨツテ上ノ如キ結論ハ無意味ダトハ云ヘスト思フ。

肋膜ノ癒著ヲ統計的ニ研究シタ報告ハ多クアル<sup>18, 19, 20, 21, 22, 23</sup>。皆結核症ト肋膜癒著トノ關係密接ナルコトヲ云ツテ居ルガ夫等ハ主トシテ Begleitpleuritis ノ事ヲ問題トシテ居ルモノデアル。内田氏<sup>24</sup>ハ特發性肋膜炎ハ結核性ナリト云フ事ニ就テ疑ヒヲモツト云フコトヲ肋膜癒著ノ研究カラ云ツテ居ル。併シソノ際結核初期變化群ヲ特ニ問題トシテ癒著ノ研究ヲシタノハ倉島、福田<sup>16</sup>兩氏デアル。併シ特發性肋膜炎ヲ特別ナ對象トシテ肋膜癒著ノ病理解剖學的統計學的研究ヲシタ業績ハ見アタラナイ。

第 6 表ハ此ノ材料ノ全體ニ及ブ統計デアル。先ヅ肋膜ニ變化アリシモノ及ビ變化ナキモノヲ分子變化アルモノニ就イテハ上述セル如ク A, B<sub>1</sub>, B<sub>2</sub>, C ノ 4 群ヲ區別シテ男女別ニ又年齡の統計ヲトツタ。肋膜變化ナキモノニ就テハ肺結核症ナク結核初期變化群發見サレタモノ及ビ發見サレナカツタモノ、肺結核症アルモノ及ビ結核症ヲ死因トセルモノ、次肋膜變化ナキ群ニ於ケル第二次結核症ノ病型ヲ追及シ、最後ニ全剖解例ニ於ケル結核死ノ統計ヲナシタ。

第 7 表ハ第 6 表ノ數値ヲ各年齢別ニソノ年齢中ノ百分率トシテ示シタモノデ年齢順ノ比較ニ便ナラシメタノデアル。第 1 圖並ニ第 4 圖ハ第 7 表カラ製作シタ曲線デアツタ。肋膜變化アルモノニ就テハ最早各所ニ於テ説明ヲ加ハタ。ソシテ其ノ場合ニ述ベタ數値ハ男女合計ノ夫デアツタ。男女ヲ別々ニ考察シテモ大體同様ノコトガ云ヘル。只結核死ノ頂點ガ女性ニ於テハ 16—20 歳ニ既ニ現レテ居ル。ソシテ 30 歳ニ至ルマデ高率ヲ持續シテ居ル。從ツテ第二次結核肋膜炎ノ曲線ニモ同様ナ傾向ヲ生ジタ。

次ニ特ニ注意スベキコトハ肺結核症アリテ肋膜變化ナキモノハ稀ナコトデアル。第 6 表一ソノ實數ヲ示シタ。其ノ肺結核症ノ病變ヲ見ルト幼若ナルモノニ於テハ比較的廣イ滲出性病變ガアリ 15 歳以上ノ者デハ極ク限局シタ小病變ガ見出サレタニ過ギナカツタ。粟粒結核症デハ肋膜變化ナキモノ、可成ニアルコトモ事實デアル。

第6表 肋膜變化分布實數

年	性	剖	年齢	11-15歳	16-20歳	21-25歳	26-30歳	31-40歳	41-50歳	51歳一	計
			♂ ♀	♂ ♀	♂ ♀	♂ ♀	♂ ♀	♂ ♀	♂ ♀	♂ ♀	♂ ♀
肋膜變化アルモノ	第二核 肋膜炎	總計	47 31 78	24 16 40	66 40 106	92 44 136	90 36 126	142 65 207	163 65 228	395 117 512	1019 414 1433
		肺結核症アルモノA群	9 12 21	7 5 12	35 27 62	54 27 81	44 18 62	47 14 61	48 12 60	91 19 110	335 134 469
肋膜變化アルモノ	第一次核 肋膜炎	結核初期變化群有	2 8 5	4 1 5	5 5 10	11 3 14	7 9 16	23 19 42	28 13 41	42 18 60	122 71 198
		結核初期變化群不明	4 3 7	3 5 8	12 4 16	21 8 29	25 4 29	43 23 66	70 31 101	118 49 237	366 127 498
肋膜變化ナキモノ		結核初期變化群不明	32 13 45	10 5 15	14 4 18	6 6 12	11 5 19	29 9 38	17 26 71	74 31 105	196 82 278
		肺結核症ナク他ノ因	87 57 135	12 9 21	18 15 33	19 13 32	23 11 34	44 36 80	47 24 71	75 33 108	316 198 514
結核ノ病型		結核初期變化群アリ	3 2 5	1 3 4	2 4 6	2 0 2	9 6 15	6 0 6	13 4 17	60 27 87	257 165 422
		結核初期變化群ナシ	70 51 121	10 6 16	16 9 25	12 8 20	17 11 27	33 29 62	39 24 63	60 27 87	257 165 422
結核ノ病型		肺結核症アリ	0 1 1	1 0 1	1 1 2	5 0 5	2 0 2	2 0 2	1 2 3	2 2 4	14 6 20
		結核死	5 4 9	1 1 2	1 4 5	2 1 3	0 0 0	0 0 0	1 2 2	1 1 1	11 10 21
結核ノ病型		粟粒結核	9 9 18	2 2 4	4 4 8	3 3 6	3 3 6	4 4 8	4 4 8	5 5 10	18 18 36
		右小葉結核	1 1 2	1 1 2	1 1 2	1 1 2	1 1 2	1 1 2	1 1 2	1 1 2	2 2 4
結核ノ病型		左小葉結核	1 1 2	1 1 2	1 1 2	1 1 2	1 1 2	1 1 2	1 1 2	1 1 2	2 2 4
		右下葉結核	1 1 2	1 1 2	1 1 2	1 1 2	1 1 2	1 1 2	1 1 2	1 1 2	2 2 4
結核ノ病型		右上葉結核	1 1 2	1 1 2	1 1 2	1 1 2	1 1 2	1 1 2	1 1 2	1 1 2	2 2 4
		左上葉結核	1 1 2	1 1 2	1 1 2	1 1 2	1 1 2	1 1 2	1 1 2	1 1 2	2 2 4
結核ノ病型		結核死	15 14 29	7 6 13	32 27 59	47 27 74	29 18 47	33 40 73	19 25 44	24 8 32	206 113 319
		結核死	15 14 29	7 6 13	32 27 59	47 27 74	29 18 47	33 40 73	19 25 44	24 8 32	206 113 319



第 7 表 肋膜變化分布百分率 各同年齢解剖例ニ對スル百分率

年 齡		1-10 j		11-15 j		16-20 j		21-25 j	
性 別		♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
肋膜＝變化ナキモノ		62.4% ±4.3%	64.8% ±5%	33.4% ±7.8%	36% ±9.6%	21.4% ±4.4%	27.2% ±6%	17.1% ±3.5%	22.8% ±5.5%
		<b>63.3%</b> ±3.3%		<b>34.4%</b> ±6.1%		<b>23.7%</b> ±3.6%		<b>19.0%</b> ±3%	
肋膜＝變化アルモノ		37.6% ±4.3%	35.2% ±5%	66.6% ±7.8%	64% ±9.6%	78.5% ±4.4%	72.8% ±6%	82.8% ±3.5%	77.2% ±5.5%
		<b>36.7%</b> ±3.3%		<b>65.6%</b> ±6.1%		<b>76.3%</b> ±3.6%		<b>81%</b> ±3%	
第 二 次 肋 結 核 炎 (A 群)	肺 結 核 症 アリ 肋 膜 癒 著 アル モ ノ (A 群)	7.2% ±2.3%	13.6% ±3.6%	19.4% ±6.5%	20% ±8%	41.7% ±5.3%	49.1% ±6.7%	48.6% ±4.7%	48.9% ±7.2%
		<b>9.9%</b> ±2%		<b>19.7%</b> ±5%		<b>44.6%</b> ±4.2%		<b>48.2%</b> ±3.4%	
第 一 次 肋 結 核 肋 膜 炎 (B 群)	結 核 初 期 變 化 群 アリ 肺 結 核 症 ナク 肋 膜 癒 著 アル モ ノ (B <sub>1</sub> 群)	1.6% ±1.1%	3.4% ±1.9%	11.1% ±5.2%	4% ±3.9%	6% ±2.5%	9.1% ±3.8%	9.9% ±2.8%	5.3% ±2.9%
		<b>2.4%</b> ±1%		<b>8.2%</b> ±3.5%		<b>7.2%</b> ±2.1%		<b>8.3%</b> ±2.1%	
	結 核 初 期 變 化 群 ナク 肺 結 核 症 ナク 肋 膜 癒 著 アル モ ノ (B <sub>2</sub> 群)	3.2% ±1.5%	3.4% ±1.9%	8.3% ±4.5%	20% ±8%	14.3% ±3.8%	7.3% ±3.5%	18.9% ±3.7%	14.1% ±4.5%
		<b>3.3%</b> ±1.2%		<b>13.1%</b> ±4.3%		<b>11.5%</b> ±2.7%		<b>17.3%</b> ±2.9%	
肺 結 核 症 ナク 他ニ肋膜變化ヲ起ス 因 子 ニ ヨ リ 癒 著 (C 群)		25.6% ±3.9%	14.7% ±3.7%	27.8% ±7.4%	20% ±8%	16.7% ±4%	7.3% ±3.5%	5.4% ±2.1%	10.5% ±4%
		<b>21.1%</b> ±2.7%		<b>24.6%</b> ±5.5%		<b>13%</b> ±2.8%		<b>7.2%</b> ±1.9%	
結 核 死		12% ±2.9%	15.9% ±3.9%	19.4% ±6.5%	24% ±4.2%	38.1% ±5.3%	49.1% ±6.7%	42.3% ±4.7%	47.3% ±6.6%
		<b>13.6%</b> ±2.9%		<b>21.3%</b> ±5.2%		<b>42.4%</b> ±4.1%		<b>44%</b> ±3.8%	

26-30 j		31-40 j		41-50 j		51 j -		計	
♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
20.4% ±3.7%	23.4% ±6.1%	23.6% ±3.1%	35.6% ±4.7%	22.4% ±2.8%	26.9% ±4.7%	16% ±1.6%	22% ±3.3%	23.7% ±1.2%	32.4% ±1.8%
<b>21.3%</b> ±3.2%		<b>27.9%</b> ±2.6%		<b>23.7%</b> ±2.4%		<b>17.4%</b> ±1.4%		<b>26.4%</b> ±1%	
79.6% ±3.7%	76.6% ±6.1%	76.3% ±3.1%	64.4% ±4.7%	77.6% ±2.8%	73.0% ±4.7%	84% ±1.6%	78% ±3.3%	76.3% ±1.2%	67.6% ±1.8%
<b>78.7%</b> ±3.2%		<b>72.1%</b> ±2.6%		<b>76.3%</b> ±2.4%		<b>82.6%</b> ±1.4%		<b>73.6%</b> ±1%	
38.9% ±4.5%	38.3% ±7%	25.3% ±3.1%	13.9% ±3.4%	22.8% ±2.8%	13.5% ±3.6%	19.3% ±1.8%	12.7% ±2.7%	25.1% ±1.2%	21.8% ±1.6%
<b>38.8%</b> ±3.8%		<b>21.3%</b> ±2.4%		<b>20%</b> ±2.3%		<b>17.7%</b> ±1.5%		<b>24.1%</b> ±1%	
6.2% ±2.2%	19.1% ±5.7%	12.4% ±2.7%	18.7% ±3.8%	13.3% ±2.3%	14.6% ±3.7%	8.9% ±1.3%	12% ±2.6%	9.1% ±0.8%	11.6% ±1.3%
<b>10%</b> ±2.3%		<b>14.6%</b> ±2%		<b>13.7%</b> ±1.9%		<b>9.7%</b> ±1.1%		<b>9.9%</b> ±0.7%	
22.1% ±3.9%	8.5% ±4%	23.1% ±3%	22.8% ±4.1%	33.3% ±3.2%	34.8% ±5%	40% ±2.2%	32.6% ±3.8%	27.4% ±1.2%	20.8% ±1.6%
<b>18.1%</b> ±3%		<b>23%</b> ±2.3%		<b>33.8%</b> ±2.7%		<b>38.2%</b> ±1.9%		<b>25.3%</b> ±1%	
12.4% ±3.1%	10.6% ±4.4%	15.5% ±2.7%	8.9% ±2.8%	8.1% ±1.8%	10.1% ±3.1%	15.7% ±1.6%	20.7% ±3.3%	14.7% ±1%	13.4% ±1.4%
<b>11.3%</b> ±2.3%		<b>13.2%</b> ±1.9%		<b>8.7%</b> ±1.6%		<b>16.9%</b> ±1.5%		<b>14.3%</b> ±0.8%	
25.7% ±4.1%	38.3% ±7%	17.7% ±2.8%	6.9% ±2.5%	9% ±1.9%	6.7% ±2.6%	5.1% ±1%	5.3% ±1.7%	15.4% ±1%	18.4% ±1.5%
<b>29.4%</b> ±3.6%		<b>13.9%</b> ±2%		<b>8.3%</b> ±1.2%		<b>5.2%</b> ±0.9%		<b>16.3%</b> ±0.8%	

## 總 括

東大病理學教室昭和3年ヨリ同12年ニ至ル10ヶ年間ノ解剖例2531例中、胸部記載明瞭ナル1947例ノ解剖記録ヨリ肋膜癒著ノ統計的觀察ヲナシタ。肋膜癒著ハ全例ノ73.6%ニアル。ソノウチ33%ハ肺結核症ヲ伴ツテ居タ。之ヲA群トスル。13%強ニハ肺結核症モ無ク他ニ肋膜癒著ヲ起ス因子モナイ、只結核初期變化群ガ發見サレテ居ル。之ヲB<sub>1</sub>群トスル。34%強ニハ肺結核症モ無イシ他ニ肋膜癒著ヲ起ス因子モナイ。又結核初期變化群モ發見サレテ居ナイ。之ヲB<sub>2</sub>群トスル。最後ノ19%ニハ肺又ハ肋膜ノ腫瘍ガアツタリ、縦隔竇ノ疾患ガアリ或ハ肺炎、肺壞疽等或ハソノ既應症アリ又ハ肺結核症以外ニ追及サルベキ原因ガアツテ肋膜癒著ヲ起シタモノデア。之ヲC群トスル。

B<sub>1</sub>群B<sub>2</sub>群ノ肋膜癒著ノ様式ヲ比較シテ見ルト癒著ノ部位的關係ソノ擴ガリ工合竝ニ夫等ノ年齢の分布ガ全ク同様デアツテA群トハ著シイ對立ヲ示シテ居ル。「ツベルクリン」反應ノ成績カラモB<sub>1</sub>B<sub>2</sub>ノ類似ガ明カダ。B<sub>1</sub>B<sub>2</sub>兩群ハ一ハ結核初期變化群ガ見出サレテアリ、他ニハ夫が見ノガサレテ居タースギナイト云フコトヲ初期變化群ガ特ニ意識シテ探求シナケレバ見出シ難イト云フ事ヨリ推論シタ。次ニ成人ニ於テハ80—90%ニモノ高率ニ初期變化群アレバ肋膜癒著ガアルコトヲ示シ、シカモ如斯肋膜變化ハ初期變化

群ノ位置ト關係ガ深イ、即チ同側ニアルコトガ多イコトヲ確メタ。

A群ノ肋膜變化ハB群ト異リ、全般的ナ殊ニ兩側全般的ナ癒著ガ多ク又肋膜ノSchwielenbildungガ多イ。此ノ者ハ肺結核症ニ隨伴シテ起ツタ所謂Begleitpleuritisニ他ナラヌモノデア。A群トB群トヲ合シテ造ツタ年齢的ノ肋膜癒著ノ傾向曲線ニテ25歳邊ノ山ヲケヅルト、此ノ曲線ハ「ツベルクリン」陽性率ノ曲線ト並行スルモノトナル。シカモ此ノ補正ハ此ノ材料ニ於テ25歳附近ニ結核死ガ山積スルト云フ事カラ妥當デア。此處ニ又所謂特發性肋膜炎ハ結核ノ初感染乃至ハ初期變化群ノ成立ニ聯關シテ發生スルト云フ確實ナ學說ガアル。從ツテB<sub>1</sub>B<sub>2</sub>兩群ヲ一括シタB群ノ肋膜癒著ハ所謂特發性肋膜炎ノ遺殘物乃至ハ特發性肋膜炎ト臨牀的ニハ診斷サレナクモ結核初感染ト聯關シタ輕症肋膜炎ノ跡ト考ヘル。A群ノBegleitpleuritisハ第二次結核肋膜炎ト云ヘヨウ、ソシテB群ノ夫ハ第一次結核肋膜炎ト命名シテ良イ。

更ニ男女兩性ニ就キテ見ルト結核死ノ頂點ガ女性デハ男性ヨリ若クテ達セラレ且ツ長ク續クト云フコト、及ビ肺結核症ガアルト殆ンド全部ニ肋膜變化ガ起ルト云フコトヲ統計的事實トシテ述ベタ。

## 文 獻

- 1) 沓掛諒, 海軍軍醫學會雜誌 26卷8號, 583—601, 昭和十二年.
- 2) 川島直樹, 長崎醫學會雜誌 15卷4號, 579—591, 昭和十二年.
- 3) F. Bezancon u. Weil, Ann. de Méd. 21, 344—349, 1927. Ref. in Zentralbl. f. d. Gesam. Tbc. Forsch. 28. 1928.
- 4) O. Gsell, Beiträge z. Klin. d. Tbc. 75, 701—733, 1930.
- 5) E. Grawitz, Berliner Klin. W., 34, 621—623, 1897.
- 6) 金井徳次郎, 南賢次郎, 結核 6卷5號, 599—600, 昭和三年.
- 7) 岡治道, 實驗醫報 278號, 298—319, 昭和十二年.

- 8) L. Aschoff, Z. f. Klin. Med. 29, 440—449, 1896.
- 9) H. Königer, Z. f. Tbc. 17, 521—533, 1911.
- 10) 小林義雄, 結核. 9卷10號, 1291—1395, 昭和六年.
- 11) M. Arborelius, Sv. Läk. sällsk. 56, 115—210, 1930. Ref. in Zentralbl. f. d. Gesamt. Tbcforsch. 34.
- 12) S. Engel, Handbuch d. Kinder Tbc. II 1458—1463, 1930.
- 13) M. Lange, Z. f. Tbc. 38, 167—181, 263—283, 1923.
- 14) 岡治道, 結核, 6卷5號, 592—593, 昭和三年.
- 15) 沓掛諒, 新潟醫科大學病理

學教室研究報告. 第五輯, 1—66, 昭和三年. 16) 岩下才一郎, 軍醫團雜誌. 255 號, 1488—1492, 昭和九年. 17) 倉島正平, 福田宗雄, 新潟醫科大學病理學教室研究報告第八輯, 1—36, 昭和四年. 18) 藤浪鑑, 日新醫學 第 8 卷, 1711—1742, 大正八年. 19) 今 裕, 成醫學月報第 404 號, 438—443, 大正四年. 20) 永松之幹, 福岡醫科大學雜

誌 24 卷 5 號, 528—586, 昭和六年. 21) 岡村三郎, 北越醫學會雜誌, 39 卷, 135—147, 大正十三年. 22) 志田忠, 長崎醫學會雜誌 9 卷 5 號, 1032—1043, 昭和六年. 23) 富澤英一, 慶應醫學 15 卷 8 號, 1221—1232, 昭和十年. 24) 內田長平, 臺灣醫學會雜誌 34 卷 4 號, 423—447, 昭和十年.